

進化し続ける MTB オリエンテーリングの現状を羽鳥がレポート



筆者・羽鳥和重

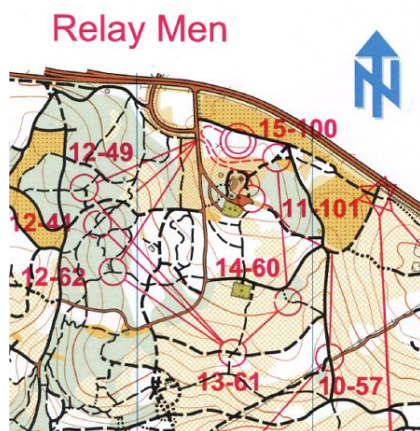
MTBO をはじめた

マウンテンバイクオリエンテーリング、通称 MTBO。長年フット 0 のナショナルチーム選手だったぼくも、2002 年フランス MTBO 世界選手権を見るまでは大した感想も知識もなかった。それから徐々に MTBO (やスキー 0) という、道具スポーツの面白さに傾倒することとなる。

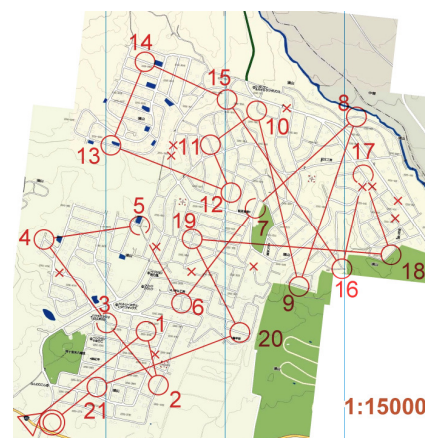
フット 0 では走力+技術力のトータルを競うが、MTBO やスキー 0 ではさらに道具を使いこなす技術が加わり、走力+技術+技術というより楽しい競技へ変わる。

オリエンティアなら思うだろう、「道しか使わないオリエンテーリング? 簡単すぎるんじゃないか」って。しかし、MTB バイカーは全く逆の印象を持つ。「こんなに細かい道走るの? 走りの技術に集中したいレースで立ち止まるなんて考えられない。」

本当のところ両方とも違う。「MTBO は良いところ取り。とにかく面白い。」



イスラエル WOC の地図。MTBO は良質な森林、フットの地図がない国にも、オリエンテーリングの面白さを広げている。



2010 年 9 月の練習会で使用した地図

公道を使うため交通事故の危険がある (頑張りすぎたり、コーナーを攻めたりしちゃダメ)、あるいは地図作成は厳密には著作権法違反、という点は目をつぶっていただきたい。

この MTBO 練習会をやってみたら、もうとても面白い。ちょっと地図の見栄えが ISOM から異なるにせよ、完全に世界選手権レベルの MTBO の楽しさが味わえる。

この MTBO 地図&コースはさらに革命をもたらした。コントロール設置が要らないのである。GPS を持って走り、丸の中心に来たら、次のコントロールに向かえばよい。後でデータ処理をすれば、ラップ解析も、ルート比較もできてしまうのだ。フット 0 の合宿では、設置して一日に通過するコントロールの数はせいぜい 50 だろう。しかし MTBO なら、一日に 100 コントロール以上のバリエーションを堪能できる。

地図作成は進化を遂げた

それでも Yahoo! 地図を貼りあわせるのは、やはり数日という時間がかかる。こうなったらイノベーションを駆使し、全国どこでも地図を作って MTBO をすぐ楽しむのだ。究極には「EveryDay, NewMap」。果たしてそんなことができるか、挑戦は続いた。

様々な情報を収集してプロトラス (地図ソフト) を購入。市販ソフトは、地図成果の二次利用を制限するために、全てビットマップ出力は狭い範囲に限られている。

- ・地図を作るのに、例えば A4 を 60 枚手で貼りあわせる方法だとやはり時間がかかる
- ・市販地図の色はオリエンテーリング

MTBO に練習環境がなかった

そのうち、本格的な MTBO を国内でやってみたく思うようになった。ナショナルチーム時代の自分には、フット 0 ですら 2000 年の WC「勢子辻」を作るまで、トレインに恵まれていない日本国内で高いレベルの練習はできなかった現実がある。

MTBO の現実はこちらだ。国内に山はいっぱいあるし、道も結構ある。しかし、そのほとんどは急すぎて、足で走れても MTB では楽しく走れない (かついでばかり)。一方でフラットな富士や八ヶ岳には道がなさすぎる。

それではマッパーでもある自分が、畑などが広がる丘陵地帯トレインを探して地図を作ろうか。しかし今まで本格的なマッピングに延べ約 500 日を費やした私には、一人でがんがん地図を作るには負担が重過ぎる。こうなったら市販の既成地図で、手軽に面白く MTBO はできないだろうか? そう考えた。

郊外や市街地で地図を作る

インターネットの Yahoo! 地図画像を 1:5,000 で表示し、ひたすら貼り合わせた地図を 2 種類作って 2010 年 9 月に MTBO 練習会を開催してみた。フォトショップで色の変換をするなど、とても苦勞している。A4 市街地スプリントと、1:20,000 で A3 サイズの非常に広域なロング練習用を試しに作ってみたのであった。

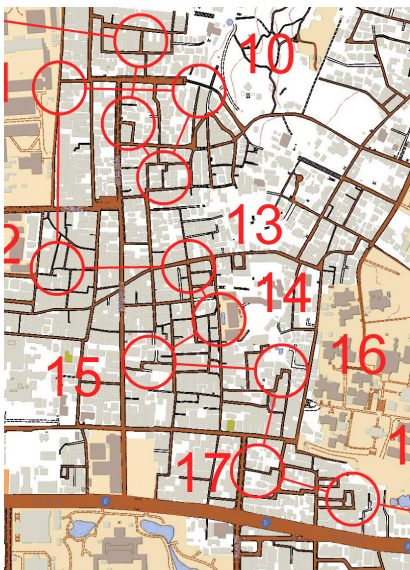
用から程遠い

この難題を解決するために、プログラマ(画像処理専門)でもある羽鳥は、専門の地図画像処理ソフトを製作した。

プロアトラスで
地図画像 100 枚出力(30分)
↓
自作ソフトで
画像を 1 枚にマージ(数分)
↓
自作ソフトで
特殊な色変換を実施(数分)

出力された画像は、そもそも道路の精度は抜群で、縮尺や座標位置も非常に正確である。あとは OCAD 上でコースを作成するだけである。さらにコース出力、GPS 成果でのカシミール上でのルート動画比較など、現在の最先端の地図作成と利用技術を駆使している。実際に今年 3 月に作成し練習会が開かれた某所の地図を見ていただきたい(なじみのある方なら場所がわかるだろう)。

これほどの地図とコースを、小一時間で作成し楽しむことができる(白黒ではわからないが)色処理を駆使することによって、水系の青、建物、二条線道路の茶色が実現され、O-Map に近い表現になっている。



練習会で使用している地図の最新版

高精度の地図成果は、最近大変流行っている市街地ロゲイニングなどにもすぐに適用が可能である。国土地理院の地図とは違い、すばらしく見栄えの良い地図が供給できる。

またフット0の大会開催に合わせて、周りの市街地や丘陵地で MTBO 練習会を開催している(2月の亀山大会で実施)。地図作成、コース設定、印刷の手間をトータルしても 2~3 時間程度で済み、本格的コースを数本提供できる。この

プロセスは、OCAD 講習会などで成果を報告できる機会があると思う。

今後の展望

さらなる地図と利用の進化を遂げる予定である。その内容をかいつまんで紹介すると、

- ・国土地理院数値地図(DEM)を使って等高線などを生成しマップに入れる
- ・コースの GPX ファイルを生成し、各自計測の GPX データと比較することにより、自動的にルートデータとラップデータを生成する
- ・ルートデータは自動的にカシミールで比較動画表示
- ・ラップデータは自動的にラップコンバットで比較表示

現在は技術的検討を進めており、2011年8月のMTBO世界選手権に向けて国内の練習環境整備を行っていく予定である。

ぜひ皆さんにはご注目いただき、MTBO 練習会にも参加してみてください。2~3 週間に 1 度くらいの割合で MTBO の練習会かイベントを開催しています。予定は

<http://www.orienteering.com/~mtbo>
に記載していく予定です。

(羽鳥和重)